

氏名： 中村 俊直 (NAKAMURA Toshinao)
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系
学位： 文学修士 (1979 東京大学)、D . E . A . (1982 ポール・ヴァレリー大学)
職名： 教授
専門分野： 近・現代のフランスの文学と思想及び言語論
E-mail： nakamura.toshinao@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

視覚イメージ／言語記号／記号論／詩学／一人称小説

◆主要業績

総数（１）件

・小林秀雄と一人称小説の問題

◆研究内容 / Research Pursuits

- 1 フランスの 19 世紀末から 20 世紀前半にかけて活躍した詩人・批評家のポール・ヴァレリーに関する多角的・総合的な研究。さらに彼に関係する文学者や芸術家並びに彼の生きた時代に関する総合的な研究。
- 2 言語記号と視覚記号の両者の機能の比較研究。特に、写真、絵画、言語表現の三者の相互影響関係の考察。
- 3 自分自身を語る言説（自伝、書簡、日記、私小説など）の機能と形態の特徴の考察。
- 4 日本の近現代の文学者や芸術家の営為にフランスの文学や文化が与えた影響の解明。また逆に日本の芸術がフランスの文学や美術に与えた影響の解明。

◆教育内容 / Educational Pursuits

学部

- 1 フランス語の初級文法並びにフランス語の中級程度の作文と読解の教授。
- 2 西ヨーロッパの文化や社会の特質の考察。
- 3 言語表現による「現実描写」の問題の考察。
- 4 ロラン・バルトの映像論、写真論を参照しながら言語記号と視覚記号のそれぞれの特質を比較対照的に考察。
- 5 卒業論文指導。

大学院

- 1 フランス 19 世紀のリアリズム小説の問題の考察。
- 2 ヴァレリーの散文詩集『アルファベット』の精密な読解。

◆研究計画

視覚記号と言語記号との両者の機能を総合的に比較検討する。文化史、社会学、記号論、美術批評、文学批評、情報伝達論などの多様な視点から研究を進める。歴史的に見れば、現代の社会、文化の特徴の一つは、これら二つの表現・コミュニケーションの手段の共存並びに相互影響関係であると言えるからである。

◆メッセージ

大学は自由にものを考え、探求することが出来る場所です。大学での学問の範囲は明確に限定されているわけではありません。従ってはっきりした一つの答えが見つからなくてもよいのです。思考や探求の結果ももちろん重要ですが、それと同じくらいに、あるいはそれ以上に重要なのは、結論に達するまでの過程です。その過程において、たくさんのことを考え、調べ、さらにはいろいろ迷うことが、後々大きな意味を持てきます。そのようにして柔軟な思考力や幅の広い判断力を養成することが、大学を卒業してからの長い人生において大きな力となることでしょう。